11 月号 ごあいさつ
With コロナ時代の日本経済の本質的課題とは［Ⅲ］
大径材の活用による国産材需要拡大へ向けて

株式会社 山西 あすなろ会顧問 代表取締役社長 西 垣　洋 一

コロナウイルスの蔓延の影響による輸入材の高騰と入荷遅延、いわゆる「ウッドショック」やロシアのウクライナ侵攻の影響が未だ尾を引いている中、円安の進行等、輸入材の供給は先行き不透明な状況が続いています。さらには、輸入材の価格・供給量は、常に社会情勢等の外的要因に左右される為、今後予想されている世界的な人口増加や、新興国の経済成長等による世界的規模の木材資源の逼迫や減少等、輸入材の不安要素は増すばかりです。

他方、日本は国土の約 3 分の 2 を森林が占める世界でも有数の森林国です。しかし、残念ながらその森林資源の多くは活用されておらず、国産材自給率は約 41.1％と増加傾向にあるものの、まだまだ輸入材に依存しているのが現状です。そのため日本の人工林の半分以上は本格的な伐採期を迎え、高齢級化が進んでおり、大径木化する高齢級材の利活用が日本の林業活性化への課題の一つとなっています。林齢構成の若返りと森林整備を促進するためには、大径材を始めとした森林資源を有効活用し、「 伐る・使う → 植える → 育てる 」という循環利用が必要となります。加えて国産材の利用拡大は、ＳＤＧｓやＧＸ、ひいてはカーボンニュートラルの実現に寄与すると共に、地域経済の活性化にもつながります（図１参照）。

○ 日本の森林の状況

＜ 人工林の状況 ＞

- 46 年生以上の森林が全体の 65％を占めており、高齢級化が進んでいる（図 2 参照）。
- 一般に 46 年生以上になると建築用材（柱等）として利用可能であり、利用可能な資源が充実している。
- 年間成長量が約 41 万㎥／年であり、蓄積量が年々増加している（図 3 参照）。
- 高齢級材は大径化しており、大径材を利用し、循環利用をしていくことが重要。

＜ 高齢級化が進んでいる理由 ＞

- 大径材からは歩留まりの高い梁桁等の横架材の生産が可能であるが、スギ・ヒノキは、外国産と比べて強度が劣り使いにくいと考えられている傾向にあり、柱材と比べて高い曲げ強度を求められる梁桁等の横架材ではスギ・ヒノキ横架材の有効性の認知が広がっておらず、現状ではスギ・ヒノキ横架材の需要が少ない
- 大径材の需要が少ないことから、大径原木の価格が安く、高齢級林の伐採後の再造林につなげる原資を得ることが困難なため、森林所有者が伐採をためらう。
- 国等では大径材利用の研究が進められており、強度を満たし、利用が可能なことが判明しているが、流通量や使用するきっかけがないことから普及していない。

＜ 若返りが必要な理由 ＞

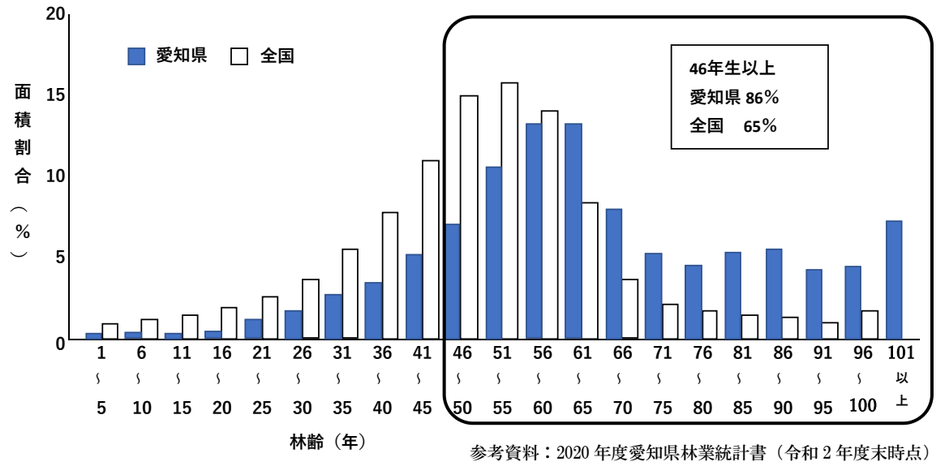
- 森林の CO_2 吸収量は高齢級化に伴い減少していくので、森林吸収量を確保していくためには、成長の旺盛な若い森林を造成していくことが必要。
- 持続可能な林業・木材産業を営むために、森林の林齢構成を適正に保っていくことが必要。

こうした状況下、当社としましても国産材普及プロジェクトの一環として、総ヒノキづくりの家を推進、只今提案ツールとしてチラシやカタログを作成しています。他社との差別化、お客様への提案力強化、高まる国産材需要の趨勢に向けてぜひご参画下さい。

2022 年 11 月吉日

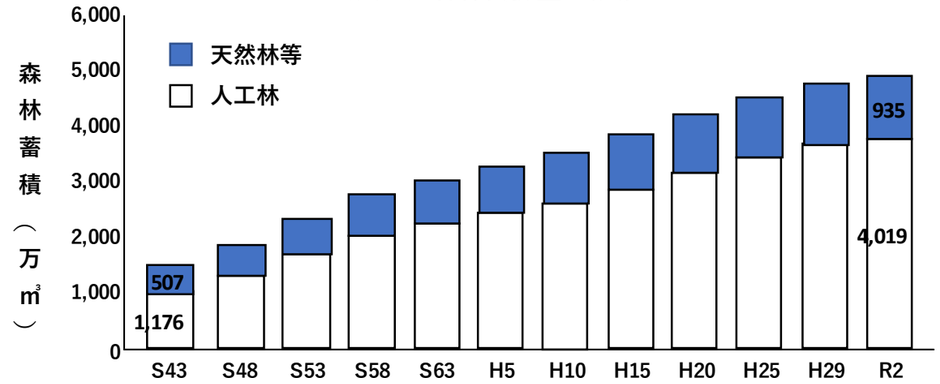
（図１）循環型林業のイメージ

（図２）人工林の林齢別面積割合



参考資料：2020 年度愛知県林業統計書（令和 2 年度末時点）

（図３）森林資源量の推移



参考資料：「森林資源の現状」（平成 29 年度末時点）